こども科学研究費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 総合研究報告書

低年齢児保育が子どもの発達等に及ぼす効果・影響の解明のための研究 令和6年度 分担研究報告書

「低年齢児保育の質尺度(案)の開発過程(R6年度)」

研究代表者 箕輪潤子 武蔵野大学・教授

研究分担者 峰友紗 武蔵野大学・准教授

研究分担者 淀川裕美 千葉大学·准教授

研究分担者 堀科 東京家政大学·准教授

研究分担者 猪熊弘子 駒沢短期大学·教授

研究分担者 菅井洋子 川村学園女子大学·教授

研究分担者 今福理博 武蔵野大学・准教授

研究要旨

保育の質や保育実践は、社会・文化・歴史といった要因が基盤となって形成される。本研究班は、日本の文脈に基づいた低年齢児保育のプロセスの質の尺度開発を行うことを目指す。令和5年度に実施したヒアリング・質問紙調査の分析内容を踏まえ「低年齢時保育プロセスの質尺度(仮)」を作成し、仮調査・本調査1回目を実施した。令和7年度の本調査2・3回目の結果と、「低年齢時保育プロセスの質尺度(案)」を質問票にして送付した回答を分析し、「低年齢時保育プロセスの質尺度」に反映させる。

A. 目的

保育の質や保育実践は、社会・文化・歴史といった要因が基盤となって形成される。そのため、子どもたちの育ちの保障、育ちにおいて何を重視するのかは、相対的多元的であり、社会により変化すると言われていることから、本プロジェクトでは、プロセスの質の尺度開発を行うにあたり、日本の保育の文脈に基づいた尺度の作成を目指す。

日本の文脈に基づいたプロセスの質の尺度 開発を行うにあたり、日本で低年齢児保育を 実施している保育所・認定こども園等の施設 長や保育士・保育教諭の保育実践や保育の質 に関する認識を反映させることが必要であると考えられる。そこで、R5 年度に実施した保育士・幼稚園教諭を協力者とした保育実践や保育の質に関する質問紙調査と、R5・6 年度に実施した管理職・研究者へのインタビューをもとに「低年齢児保育プロセスの質尺度(案)」を作成し、保育所等で仮調査・本調査1回目を実施する。

B. 方法

2023 年 10~12 月に、①低年齢児保育プロセスの質に関する項目(尺度のベース)を作成し、2024 年 1 月~2025 年 3 月にかけて、

② ①を含む管理職・保育者への質問票作成 ※R5 年度報告書参照 を作成、③ 質問票調査 の実施と回答の分析(量的分析・質的分析) と、④ 研究者・管理職へのインタビューと語 りの内容の分析を行い、その結果を、尺度項 目に反映した「低年齢児保育プロセスの質尺 度(案)」を作成した。

その後、「低年齢児保育プロセスの質尺度 (案)」を実際に用いて、2024年12月に関東 近郊の5施設で仮調査を、2025年2~3月に 関東近郊の17施設・19クラスで本調査(1 回目)を実施した。

<倫理的配慮>

保育所等での観察調査については、事前に調査 内容を管理職に書面で説明の上、同意を得てか ら実施すると共に、同意書へのサインと提出を 依頼した。なお、武蔵野大学教育学部倫理委員 会の承認を受けている(承認番号 R6-002)。

C. 報告

「低年齢児保育プロセスの質尺度(案)」の開発プロセス

1. 尺度案1(2024年5~8月に検討)

R5 年度に送付した質問票の保育プロセスの 質に関わる項目 (0歳児23項目、1・2歳児30 項目)を中心として、尺度を作成した。

項目は、【基本的生活】【健やかにのびのびと 育つ】【身近な人と気持ちが通じ合う】【身近な 物とかかわり感性が育つ】の4つの柱に分ける と共に、国立教育政策研究所の「幼児教育にお ける保育実践の質評価スケール案」を参考にし て、文言を尺度用に見直し修正を行なった。 柱と項目は以下の通りである。 【基本的生活】17項目(基本事項3項目、記録と計画3項目、授乳と食事5項目、睡眠4項目、着脱と排泄7項目)

【健やかにのびのびと育つ】10項目(安全2項目、計画1項目、清潔1項目、身体感覚1項目、粗大運動4項目、微細運動1項目)

【身近な人と気持ちが通じ合う】25 項目(人との関わり16項目、保育者との関わり8項目・計画1項目)

【身近な物とかかわり感性が育つ】28項目(主体的な遊びの援助11項目、思考と探求の芽生えを育む援助17項目)

「尺度案 1」では、0歳児クラスだけの項目、 1・2歳児クラスだけの項目、0歳児クラス・1 歳児クラス・2歳児クラス(全クラス)対象の 項目が混在している。

国立教育政策研究所の「幼児教育における保育実践の質評価スケール案」を参考に、項目に関することを、「観察できた場合:Y」・「できなかった場合:N」を評定する方式とした。項目は、「よい:3」「とてもよい:5」のどちらか、として作成した。

2. 尺度案 2 (2024年9~10月に検討)

尺度案1では「保育所保育指針」の乳児保育の3つの視点を柱としたが、1・2歳児が五領域であることをどのように考えるかという観点から、柱の見直しを行うことにした。また、柱の見直しに伴い、項目も修正した。柱については、項目をボトムアップでカテゴリ化し作成した。

【1. 基本的生活への援助】27項目(1日の流れ 3項目、安心感3項目、食事7項目、睡眠2項 目・排泄と衣類の着脱8項目、記録と計画4項 目

【2. 健康と安全の感覚への援助】5 項目(安全2項目、身体感覚と衛生2項目、計画1項目) 【3. 身体の育ちと運動の援助】6項目(粗大運動4項目、微細運動2項目)

【4. 社会情緒的な育ちへの援助】8項目(保育者との関わり5項目、表出と表現3項目)

【5. 人とのコミュニケーションや言葉の援助】 9項目(子どもとの関わり4項目・言葉のやり とり5項目)

【6. 主体的な遊びや活動の援助】14 項目(発達過程に応じた環境2項目、探索活動2項目、探求の芽生え3項目、多様な物との関わり1項目、自然・自然現象との出会い2項目、絵本1項目、象徴遊び3項目)

項目は、仮尺度1に引き続き、「よい:3」「と てもよい:5」の2種類を作成し、観察できた か・できなかったかを評定する方式として作成 した。

3. 仮調査の実施(2024年11~12月)

代表者・分担者都内近郊の保育所 5 園(私立4園・公立1園)に依頼し、「尺度案 2」を用いた観察評価を実施した。観察評価は、1園につき 1~2 名で実施した。

4, 尺度案 3 (2025年1月)

①質問票調査の分析結果 ②管理職・研究者へのインタビューの分析結果から、抽出された低年齢児の保育プロセスの質に関わる要素と、仮調査を踏まえ、尺度を修正し「尺度案3」を作成した。

抽出された低年齢児の保育プロセスの質に 関わる要素は以下の通りである。

- a. 基本的生活において、安心・健康・安全に 過ごせる環境と関わり
 - 個々の生理的欲求・リズムに応じた安定的な関わり
- ・ 衛生的、安全で落ち着いた環境 b. 愛着の形成、子どもの人権の尊重を大切に した関わり
 - ・ 受容的で応答的な関わり
 - ・ 個々の発達・思いの読み取りと配慮
- c. 経験と発達を支える環境構成と関わり
 - ・ 発達過程に合わせた遊びへの援助 (身体運動・探索と探求・自然とのか かわり・表現)
- d. 職員間・保護者との連携
 - ・ 保育者が専門性を持ち、同僚と連携して保育を行ったり学び合ったりする
 - ・ 保護者との信頼関係の構築と家庭と の連携を通しての保育
- ※ ①質問紙調査の分析結果: 菅井、堀、今福、 箕輪・峰の分担研究報告書を参照、②イン タビュー調査の分析結果: 箕輪、淀川の分 担研究報告書を参照。

尺度案3の柱と項目は以下の通りである。 【1. 基本的生活への援助】20項目(1日の流れ 5項目、安全な環境2項目、排泄と衣類の着脱 6項目、食事5項目、睡眠2項目)

【2. 身体の育ちと運動の援助】8 項目(粗大運動 4 項目、動きと安全 2 項目、微細運動 2 項目)

【3. 社会情緒的な育ち/人とのコミュニケーションや言葉の援助】9項目(保育者との関わり・言葉のやりとり4項目、子ども同士の関わり3

項目、保育者の言葉2項目)

【4. 主体的な遊びや活動の援助】26 項目(環境構成 室内4項目、探索活動・探究活動の芽生え 室内2項目、探索活動・探求の芽生え2項目、象徴遊び2項目、絵本・児童文化財4項目、表現2項目、環境構成 戸外6項目、自然・自然現象3項目)

【5. 保育の計画と記録・連携】15 項目(保育者同士の連携 4 項目、保育の記録 2 項目、保育の計画 4 項目、保護者との連携 3 項目、支援の必要な子どもへの配慮)

項目は「観察できた場合:Y」・「できなかった場合:N」を評定する方式ではなく、「4:かなり(7割~)」「3:まあまあ(4~6割程度)」「2:少し(~3割程度)」「1.なかった」「?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける」に変更した。理由としては、仮調査を経て項目を修正する際に、本尺度の項目が指針をベースにしていることから、「観察できた場合:Y」・「できなかった場合:N」を評定する方式だと、園の保育の特徴・よさを可視化することが難しいという意見が出たためである。なお、項目を「よい:3」「とてもよい:5」と重み付けする点は変更なしとした。

5. 本調査(1回目)

尺度案 3 を「低年齢児保育の質尺度 20250209 ver.」とし、17 園・19 クラスで本 調査の 1 回目を実施した。

本調査は、以下の流れで実施した。

- ① 観察評価:9:00~昼食の途中まで
- ② 保育者へのインタビュー調査:観察評価後
- ③ 管理職へのインタビュー調査:保育者への

インタビュー調査後

④ 園要覧・全体的な計画・月間指導計画・保 育記録 等の資料の確認:可能な範囲で複写の 提供を依頼、提供が難しいものはインタビュ 一時に確認。

① 観察評価は、2名1組で「低年齢児保育の質尺度 20250209 ver.」の項目に沿って、保育の様子について評定を行なった。

②保育者インタビューは、保育観察を実施し たクラスの担任保育者1名に、「評価項目で、 観察では確認できなかった項目と、インタビ ュー項目 (★がついた項目) について質問を 実施した。併せて「○歳児の保育で大切にし ていること」「○歳児の保育で難しいと感じる こと・困っていること」についても尋ねた。 ③管理職インタビューは、「1. 低年齢児の保 育の質とは / 低年齢児の保育で大事にしてい ること」「2.0歳児の保育の質について思う こと、大事にしていること」「3.1・2歳児 の保育の質について思うこと、大事にしてい ること」「4. 低年齢児の保育の質について、 悩んでいることや困っていること/工夫」 「5. スケールについて(使用しているか・ス ケール自体をどう思うか・自己評価と外部評 価・どのようなスケールがあるといいか な ど)」「6. 【低年齢児保育の質尺度案】の項目

D. 今後に向けて

R7年度は、本調査(2回目・3回目)を実施 し、尺度の信頼性・妥当性について検討する とともに、尺度の調整を実施する。

の内容をどのように思うか」を尋ねた。

尺度を用いた評価の実施は、1対象園に2-

3回で実施(再検査信頼性)。評価はグループ (主担当者同行者の2名)で行う。主担当者 (A)は変えずに実施し(評価者内信頼性)、 同行者(B, C, D)は毎回異なる評価者(評価者間信頼性)にて実施する。

内的一貫性については、2024 年度全国 5000 カ所の保育所に質問票を配布(返送率 20.0%)し、それを基準に尺度を作成し、尺度 間のクロンバックα係数 >0.90 と、十分な 内的一貫性を示している。また、2024 年度調 査の回収率は 20%であるものの、調査項目 が多かった中、有効回答率は、9割を超えて おり、

調査対象者の意識や行動を反映した尺度 項目となっている。ただし、尺度項目を修正 していることから、評価項目と同様の質問票 を配布し、分析を実施する。

妥当性については、尺度について、低年齢時保育に携わる研究者、保育者へのインタビューの実施により「内的妥当性」を検討する。また、保育の場面のビデオと作成した尺度を用い、低年齢時保育に携わる研究者が評価を実施することで「構成概念的妥当性」を検討する。そして、尺度測定と同時に ITERS-R™を測定し、「基準関連妥当性」を検討する。

E. 引用文献

秋田喜代美・箕輪潤子・高櫻綾子 (2007) 保育の質研究の展望と課題.東京大学大学院 教育学研究科紀要 47,289-305 秋田喜代美・佐川早季子 (2012) 保育の質 に関する縦断研究の展望.東京大学大学院教 育学研究科紀要.51,217-234. 国立教育政策研究所 (2023) 平成29-令 和4年度プロジェクト研究 「幼児期からの

育ち・学びとプロセスの質に関する研究|

報告書(第2巻)

F. 研究発表

なし

- 1. 論文発表
- 2. 学会発表
- H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

表 1 本調査 (1回目) 協力園一覧

	園名	施設類型	設置主体	都道府県	日程	クラス
1	A 園	幼保連携型認定こども園	学校法人	千葉県	2/4	2歳児クラス
					2/18	1歳児クラス
2	B園	幼保連携型認定こども園	学校法人	神奈川県	2/6	1歳児クラス
3	C 園	小規模保育事業 A 型	NPO 法人	東京都	2/7	0歳児クラス
4	D園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	2/26	0歳児クラス
5	E園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	3/19	1歳児クラス
6	F園	保育所型認定こども園	学校法人	栃木県	3/3	0歳児クラス
7	G 園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	3/12	1歳児クラス
8	H園	事業所内保育所	学校法人	東京都	3/7	1歳児クラス
9	I園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	3/12	1・2 歳児クラス
10	J園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	3/11	0歳児クラス
11	K園	認可保育園	学校法人	千葉県	3/13	0歳児クラス
12	L園	認可保育園	社会福祉法人	東京都	2/25	0歳児クラス
13	M園	認可保育園	公益財団法人	東京都	2/27	0歳児クラス
					2/27	1歳児クラス
14	N園	認可保育園	社会福祉法人	神奈川県	3/19	0歳児クラス
15	0 園	認可保育園	公立	東京都	3/7	1歳児クラス
16	P園	認可保育園	公立	東京都	3/12	1歳児クラス
17	Q 園	幼保連携型認定こども園	学校法人	千葉県	3/19	1歳児クラス

低年齢児保育の質スケール(案) 20250209ver.

調査者用 ※取扱注意

園・施設名							
実施日時				: ~ ~	: :		
クラス	10000	9ス(組) 右	E籍人数	名(当日	名)	
担任名(経験年数)							
特別な 配慮が必要な 子ども							
備考							
評価者名:		他の評価者名:					

- I. 評定について
- 1. 評定者の準備
- (1) 評定者の準備物

(1) HIVE HIVE HIVE
<評定に必要なもの>
□「低年齢児の保育の質尺度案」※代表者が評定者全員分を持参
□「観察内容項目(協力園用)」2部 ※代表者のみ
□ 同意書 ※代表者のみ
□ 同意撤回書 ※代表者のみ
□「調査票(施設長)」1部 ※代表者のみ
□「調査票(保育士・保育教諭)」4部 ※代表者のみ

□ レターパック ※代表者のみ

□ 三色(黒・赤・青)ボールペン

□ ICレコーダー ※代表者のみ

□ メモ帳

□ 上履き □飲み物 □昼食

<その他 ※必要に応じて>

ロ クリップボード

□ 帽子

□ マスク

□ デジカメ (予備バッテリー・SDカード) ※撮影が許可された場合

(2) 服装

・ 動きやすい服装。室内の服装は、全身黒・暗い色はできるだけ避ける。

靴:動きやすい靴(戸外に出る場合のことを考える)

• アクセサリー:誤飲や怪我の可能性があるものはつけない

• 髪:長い場合は結ぶなど、子どもの衛生や安全に配慮する。

(3) 園への交通手段の確認

(4) その他

- ・ 項目を前もって確認しておく。
- □ 代表者は、調査者全員に当日の集合時間・場所を連絡
- □ 代表者は、前もって園に【観察調査項目(協力園用)】のpdfファイルを園に送っておく。

Ⅱ. 留意事項・注意事項

- ① 留意事項
- ・ 子どもと保育者、園への敬意を忘れず、外部者が子どもや保育に影響を与える可能性を自覚しながら入らせていただく。
- 子どもや保育者の姿、環境などで素敵なことや、大切にされていることを捉えるようにする。

② 注意事項

- 子どもの遊びや活動、動線、保育者の援助等の邪魔にならないようにする。
- 原則として、子どもと一緒に遊んだり、保育に加わったりしない。
- 評定者同士はできるだけ、異なる保育者や場所を見るようにする。
- 威圧感を与えないよう、できる限り座るかしゃがむ。表情にも気をつける。
- ・ 危険な行動や怪我については観察を中止して、保育者に知らせる、適宜判対応する。

1. 基本的生活への援助

	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり(7割~)3:まあまあ(4~6割程度)2:少し(~3割程度)1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	memo
									遊びから食事、食事から午睡などに移る時の流れが、子どもにとって	
1		3						-	無理がないよう工夫されている。	
									※子どもは、待たされすぎたり急かされすぎたりしていない。 子ども一人一人が、生理的な欲求・体調・リズムに沿って生活できて	
2	日	5						_	ナとも一人一人が、生理的な飲水・体調・リスムに行って生活できて いる。※個や小グループでの生活/時間的なゆとり/職員配置 など	
	1 の								毎日の生活リズム(睡眠時間・食事・排泄・体温等)など、日々の子	
3	流	3						_	どもの様子を保護者と園で共有しあっている★	
	れ		_	-	-	_			子ども一人一人がくつろいで過ごせる環境や時間がある。	
4		3	П			П	Ш	_	※ゆったり過ごせる時間・くつろぐためのコーナー・静かにすごせる場所など	
5		5			٦				子どもの人数や部屋の広さに応じて、音の環境に配慮している。	
_		Ŭ]]]]			※保育者の声や動きが大きすぎない、音楽のボリュームは広さや反響を考慮している	
6	安	2	П			П		_	子どもが生活する上で安全な環境である。 ※環境整備:誤飲しそうな玩具や物が置かれていない/コンセントの覆い、コードの固	
0	女全	٥							※環境登順:誤取してつな玩具や物が直がれていない/コンセントの復い、コートの面 定、安全ゲート/窓やドアにロックがある	
	な								子どもが生活する上で安全な環境を確保するために、保育中に気づい	
7	環	5	П	П	П	П		_	たことはすぐに実行・改善したり、保育者間で共有している。★	
'	境	١					ľ		※環境への気づき→再整備:子どもが使っていない状態で床に散らかっている玩具を、	
									子どもが踏まないよう片づける/ドアが開け放されていたら閉めるなど	
8		3						_	子どもが安心しておむつ交換や衣服の着脱などができるよう、清潔で	
									落ち着いた環境の配慮がされている。※おむつ交換台や着替えの台の消毒な	
9		3						_	おむつ交換や衣類の着脱を行う前に、子どもに声をかけてから行って いる。	
	排								いる。 子ども一人一人の排泄の間隔や子どもの様子等を考慮して、おむつを	
10	泄	3	П	П	П	П		_		
	· 衣]				※排尿の間隔とおしつこの色の確認/自立歩行/排尿を知らせようとする など)	
	服	_	_]]	_	_		子どもの排泄の様子・発育について、園と家庭で情報共有しながら進	
11	の	0							めている★ ※排泄機能の発達・トイレトレーニングなど	
	着								【0・1歳児】おむつ交換や衣服の着脱などの際、子どもの感覚や気持	
	脱								ちに伴った言葉や、清潔になることの心地よさを感じられるような言	
12	衛	5						_	葉をかけている。	
	生								【1・2歳児】子どもが自ら排泄に行く際や、衣類の着脱の際に、子ど	
									もが自分でしようとする気持ちを尊重してかかわっている。	
		_					_		排泄の後や食事の前に手を拭く・洗うなどする時に、子どもが清潔に	
13		5						_	することの気持ちよさを感じられるよう、言葉をかけたり見守ったり	
									している。	
14		_					_		子どもの発育(授乳間隔や嚥下や咀嚼)・健康状況・食事(食べてい るもの・食べている様子など)について、家庭と情報共有したことを	
14		3	Ш			Ш		_	るもの・長へている様子など)について、家庭と情報共有したことを一踏まえて進めている★	
									子ども一人一人が落ち着いて、ミルクを飲んだり食事をしたりできて	
15		3						-	すとも一人一人が浴ら着いて、ミルクを飲んにり良事をしたりでさて いる。	
	食								重し、噛む、飲み込むタイミングをよく見て援助している。	
16	事	3						_	【幼児食】子どもが自分で食事をしている様子を見守る際には、子ど	
									もの欲求やペースを尊重し、必要に応じて援助している。	
17		_			_		_		子ども一人一人が安心し、落ち着いて授乳や食事を行えるよう、生活	
		0							リズムを考慮して食事の時間を設定している。★	
18		5					Г		子どもたちが食べ物のおいしさや食べることの喜び、満足感を味わえ	
16		J							るように配慮している。※言葉をかける・雰囲気をつくるなど	
19		3						_]	子どもの発育・健康状況や睡眠などの様子について、園と家庭で情報	
	睡	Ľ]]]]	_		共有しながら進めている★	
20	眠	5						_	早く目覚めた子どもも落ち 着い て過ごせるように配慮している。★	

2. 身体の育ちと運動の援助

	- 1	1.0.	- 1 3		_ ^		,, -,	1//				
	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり(7割~)3:まあまあ(4~6割程度)2:少し(~3割程度)1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	memo		
21		3						_	子どもたちの発達過程をふまえ、その時期に相応しい動きができるような機会や環境がある。※0歳児(はう、立つ、歩くなど)1・2歳児(走る、跳ぶ、のぼる、押す、ひっぱるなど)			
22	粗大運	5						_	一人一人の身体や動きの発達を把握して、その子の発達に必要な動きが十分にできるように、環境と時間を保障している。★ ※発達欲求に応じた動きの保証・十分に身体を動かせる			
23	動	3						_	子どもが自ら身体を動かそうとする意欲をもったり、楽しんで身体を 動かせるようかかわっている。			
24		5						-	子どもが身体を動かしている時に、子どもが動きや身体の感覚を意識 できるようかかわっている。			
25	動 き と	3						_	子どもの安全を確保できるよう、声をかけたり環境を整えたりしている ※高い所に登ろうとしている時にマットを敷く・近くで見守る・声をかける/散歩に行く前に話をするなど			
26	安 全	5							子どもが危険な行為をしようとしている時に、安全な場や環境を考 え、動きたい欲求ややりたい思いを叶えられるようにしている。			
27	微細	3						-	指先を動かして楽しめるような環境(玩具・物)がある ※ さわる・にぎる・つまむなど			
28	運	5						_	指先を動かす複数の動作ができたり、物同士を組み合わせたりできる ような環境 (玩具・物) がある			
3. 社会情緒的な育ち/人とのコミュニケーションと言葉への援助												
	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり(7割~)3:まあまあ(4~6割程度)2:少し(~3割程度)1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	memo		
29	保育者と	3						_	子ども一人一人に対して、あたたかく受容的にかかわっている。 ※子どもの様子をあたたかいまなざしで見守る、必要に応じてスキンシップを取る。優しく声をかけるなど、一人一人の欲求・思いや願いを、子どもの表情や身振りなどから察して、その時々の状況や経緯を捉えながらかかわっている。			
30	の 関	5							子どもが困ったり泣いたり、自分の思い通りにいかない様子の時に、 その思いや欲求を受け止めて穏やかに関わっている。			
31	わり・言葉	3						_	【0歳児】子どもの体の動きや表情、発声、 喃語等に、表情豊かに関わっている。 【1・2歳児】子どもが言葉や身振り等で、自分の欲求や気持ちをで伝えようとする姿に応じている。			
32	のやりとり	5						_	【0歳児】子どもの動きや表情、発声、喃語等に応じながら、歌いかけたりふれあい遊びをしたりしている。 【1・2歳児】言葉のやりとりや言葉遊び、絵本、歌、動きなどを通して、子どもが保育者とかかわる楽しさを感じられるようにしている。			
33	اع ا	3							子どもが他児に関心を寄せている姿に気づき、見守ったり状況に応じてかかわっている			
34	も同士の	5							【1・2歳児】子どもが他児とのやりとりや遊びを楽しみ、関わりが広がるようかかわっている ※一緒にいる・一緒に遊ぶ・物や場を介しつながりがもてるようかかわる			
35	関	5							子ども同士のやり取りの中で、思いがすれ違ったりぶつかったりした 場合、子どもの発達、様子や状況に応じて配慮や援助をしている。★ ※子どもの思いを代弁する、他の子どもの思いを伝えるなど			
36	保言育	3						-	子どもを一人の人間として尊重して言葉をかけている。			
37	葉 者の	3						-	子どもの言語発達を踏まえ、語彙・表現を豊かにする言葉を意識して かかわっている 15			

4. 主体的な遊びや活動の援助

	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり (7割~)3:まあまあ (4~6割程度)2:少し (~3割程度)1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	memo
38		3						-	【室内】子どもが遊ぶことができる玩具・素材等が数種類ある	
39	環境	3						-	【室内】子どもの発達過程・興味等をふまえた玩具・素材等がある★	
40	構成(5						_	【室内】遊びの種類や目的、玩具の扱い方などを考慮して、玩具の数や並べ方等の配置が工夫されている ※人形の寝かせ方、発達や時期に応じて玩具の数を増やしたり減らしたりするなど	
41	室内	5						ı	【室内】子ども一人一人が遊びや活動の場や物を自ら選び、自由に手 に取り探索できるよう配慮している	
42		5						_	【室内】遊びや活動における子ども一人一人の様子に応じて、必要な物を出したり環境を再構成したりしている。	
43	探索 活 動	3						-	【室内】子どもが気づいたことや、興味を持っていることに気がつき、見守ったり応じたりしている。 ※子どもが見つけた小さなことに目を留めて大切にしている	
44	(室内)・探究の芽生	5						_	【室内】一人一人の子どもが気づいたことや発見したこと、心を動かしていること、考えていること等を受け止め、自ら試したり探究したりできるように応答的に関わっている。 ※さりげなく遊びに誘う・興味や好奇心が芽生えそうな物を出す・指さす	
45	の活	3						-	見る、聞く、嗅ぐ、触るなど、五感の働きを豊かにしていけるような環境や機会がある ※色、動き、光、音、匂い、手触り・感触、温度等	
46	芽 生 ・	5						-	子どもが身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の 性質や仕組みに出会ったり、気付いたりするような環境や機会がある	
47	象徴	3						-	【0歳児】ふりや見立てができるような素材や環境がある。 【1・2歳児】ふり遊び、見立て遊び、ごっこ遊びを楽しむことができ るような環境が用意されている。	
48	遊び	5							子どものふりや見立てに応答的にかかわったり、ごっこ遊びのイメージが膨らむようにかかわったりしている。 ※0歳児後半~1歳児前半:見守る・応じる / 1歳児後半~2歳児:見守る・応じる・イメージが膨らむようかかわる	
49		3						_	子どもが読みたい絵本を、自ら選んで手に取って読むことができる。	
50	絵本・	3						-	子どもの発達や季節、興味などに適した絵本が、子どもの人数に対して十分に用意され、適切に手入れがなされている。	
51	文	5							子どもが絵本に興味をもち、関わろうとする姿に応じている。 ※個々の子どもが保育者と読みたいという思いや、読んでいる時のめ くる、指さす、身体表現、言葉、模倣等などの姿に応じている	
52	財	5						_	子どもが絵本や紙芝居等の児童文化財を通して、様々な世界に触れたり楽しんだりできるようにしている。★ ※興味を持っている子ども以外の子どもにも、絵本等の児童文化財やイメージの世界を楽しめるような機会を時々設けている	
53	表	3						_	子どもが表現に触れたり、表現したりする環境やかかわり・機会などがある ★ ※うた・音楽・手遊び・ダンス/うたう・おどる・ゆれる・かく・つくる など	
54	現	5							子どもが感情や感覚、イメージなどを、自分なりに表現できるようかかわっている。※うたう・ゆれる・おどる/かく/つくる など	

	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり (7割~) 3:まあまあ (4~6割程度) 2:少し (~3割程度) 1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	тето
55		3							【戸外】子どもが遊ぶことができる玩具・素材等が数種類ある	
56		3							【戸外】子どもの発達過程・興味等をふまえた玩具・素材等がある	
57	環 境	5							【戸外】一人一人の子どもが遊びや活動の場や物を自ら選び、自由に 手に取り探索できるよう配慮している	
58	構成	5							【戸外】遊びや活動における一人一人の子どもの様子に応じて、必要な物を出したり環境を再構成したりしている	
59	戸外)	3							【戸外】子どもが気づいたことや、興味を持っていることに気がつき、見守ったり応じたりしている(子どもが見つけた小さなことにも目を留めるようにしている)	
60		5							【戸外】一人一人の子どもが気づいたことや発見したこと、心を動かしていること、考えていること等を受け止め、子ども自ら試したり探究したりできるように応答的に関わっている ※さりげなく遊びに誘う・興味や好奇心が芽生えそうな物を出す・指さすなど	
61	自然	3						_	子どもが様々な自然物に直接触れる機会や環境がある ★ ※水・砂・土/草・木・花/虫・生き物など	
62	自然	5						_	子どもが身近な自然現象(風・雨・雲・太陽・虹・氷・雪・霜・つらら/暑さ寒さ など)を感じられるように関わっている ★	
63	現 象	5						_	保育者自身が自然物や自然現象に興味をもったり、気づいたことを子 どもに知らせたりしている。★	

5. 保育の計画と記録・連携

5.	<u>保育</u>	₹ <i>0</i> .	<u>)計</u>	·画	<u>اع</u>	記録・連		連	生 乃	
	項目	段階	4	3	2	1	?		4:かなり (7割~) 3:まあまあ (4~6割程度) 2:少し (~3割程度) 1. なかった ?:観察中には見られなかった→インタビューで1~4をつける	memo
64		3						-	生活や安全上、情報共有や連携が必要な時に、保育者同士が声をかけあったり協力しあったりしている ※役割分担・欠席の子どもの報告など/戸外での危険に関する注意・人数確認の共有・子どもの状況の共有	保育中に観察する
65	保育者同士	5						-	子どもの思いや姿について、気づいたことや嬉しかったことを、保育中に保育者同士で共有している。 ※「~を見つけて並べていたよ」「OOちゃんの真似してるね」などちょっとした会話をしている	
66	の連携	3						-	気になることがある時や困ったこと、悩んだことなどがある時は、気軽に同僚間で情報共有したり、相談したりすることができている。★	以下、インタ ビュー・資料確認
67		5						-	子どもの思いや姿、発達・育ちや経験の積み重ね、保育環境や援助などに関する気づきや考えたことを、保育者同士で話し合っている。★	
68	保育の	3						_	子ども一人一人の経験や育ちを把握するために記録を取っている。☆ ※児童票・日誌・エピソード・ドキュメンテーションなど	
69	記録	5						-	子ども一人一人の育ちを記録し、職員間で共有したり、話し合ったり している。★	
70		3						_	子どもの育ちを踏まえたクラスの指導計画を立てている。☆ ※経験や育ち・発達の見通し・月齢による違い・季節ごとの留意事項等	
71	Ħ	3						_	子どもの育ちを踏まえた個別の指導計画を立てている。☆ ※経験や育ち・発達の見通し・月齢による違い・季節ごとの留意事項等	
72	か計画	5						_	指導計画に対する省察・評価を行ない、記録(指導計画の評価欄・児 童票等)に残している。☆	
73		5						_	保育の計画は、子どもの思いや興味・関心に応じて変更するなど柔軟 に対応している★	
74		3						_	園での子どもの生活や遊びの様子、育ちについて保護者に情報共有している。★	
75		5						_	子どもの様子で心配なことやトラブル、怪我等があった場合は、子どもと保護者の気持ちの両方を大切にしながら支えている。★(例えば、かみつき・ひっかきに対する子どもや保護者への対応)	
76		5						_	保護者の様子や家庭の状況の変化、保護者の悩みなどに応じて、話を きいたり配慮したりしている。★	
77	支援の必								診断等はついていないが配慮が必要だと思われる子どもに対して、その子のしたいことやできることに配慮したり、家庭と連携したりしている。★	
78	の配慮	5							特に配慮が必要な子ども(医療的ケア児・障害児・外国にルーツのある子どもなど)に対して、その子のしたいことやできることに配慮したり、家庭と連携したりしている。★	

観察調査におけるインタビュー実施について

インタビューは代表者が実施する。

1. スケールに基づいたインタビュー

【インタビューの持ち方】

- ①低年齢児の保育の質評価スケール案には、インタビュー指標を表す星印★が各項目に記されている。インタビュー に際しては、評価に関わる項目を中心に尋ね、保育観察で確認できた指標や直接関与しない場合には省略する等、予 め項目の精選を行う。そのため、評定者間で協議などの際にインタビューする指標について確認しておく。
- ②インタビューに向けて、事前依頼の際に園(所)長及び担任保育者に対して、インタビューをすること、また最初に当日の保育の振り返りをしてもらうこと等を評定者を通じて連絡しておくことが必要である。インタビューの時間帯は、保育終了後、また午睡中など、保育に支障のない時間を確認した上で、30分程度で収まるように配慮する。
- ③インタビューの参加者は、基本は担任保育者と評定者とし、可能であれば、同じクラスの担任保育者や主任(主幹保育教諭)、フリーの保育者等に同席してもらう。また、別途、園(所)長、副園(所)長などの管理職と評定者で実施する。なお、園の状況や希望により、三者(園長・担任保育者・評定者等)によるインタビューを実施することも可能とする。

【インタビューの進め方 ※代表者が許可を取り録音する】

- ①インタビュー指標の内容に適した保育者に尋ねる(例;具体的なクラスの保育方法については担任保育者、子どもへの具体的な援助については個々の担当保育者、園の方針については園長など)。
- ②当日、観察できなかった点について、特に保育行為において行なっているのかいないのかで尋ねるのではなく、具体的な対応例を尋ねる(例;子どもに対する言葉のかけ方や記録、保育者間で話し合っているかなど)。
- ③観察された点について、通常見られることなのか、それほど多くは見られないことなのかについて日常の保育における様子を尋ねる。 (例えば、インタビューの冒頭などに観察時の保育の様子は通常通りであったかについて確認する。)

スケールに基づいたインタビュー」に加え、以下のことを尋ねる。

<保育者>

- ①「低年齢児の保育」を行う上で大切にしていることはなにか
- ②「低年齢児の保育」を行う上で悩んでいることはなにか
- <施設長(または施設長に準ずる職員 ※副園長・教頭など) > ※保育者と別に30分程度のインタビュー時間がいただけるようであれば実施
- ① 低年齢児の保育の質とは / 低年齢児の保育で大事にしていること
- ② 0歳児の保育の質について思うこと、大事にしていること
- ③ 1・2 歳児の保育の質について思うこと、大事にしていること
- ④ 低年齢児の保育の質について、悩んでいることや困っていること/工夫していること
- ⑤ スケールについて(使用しているか・スケール自体をどう思うか・自己評価と外部評価・どのようなスケールがあるといいか)
- ⑥ 調査項目について

		段階	4	3	2	1			4:かなり (7割~) 3:まあまあ (4~6割程度) 2:少し (~3割程度) 1. なかった	memo
1. 1	観察	中に	確	忍で	きた	いか・	った	場合	に尋ねる項目	
35		5							子ども同士のやり取りの中で、思いがすれ違ったりぶつかったりした場合、子どもの発達、様子や状況に応じて配慮や援助をしている。★※子どもの思いを代弁する、他の子どもの思いを伝えるなど	
52		5							子どもが絵本や紙芝居等の児童文化財を通して、様々な世界に触れたり楽しんだりできるようにしている。★ ※興味を持っている子ども以外の子どもにも、絵本等の児童文化財やイメージの世界を楽しめるような機会を時々設けている	
53		3							子どもが表現に触れたり、表現したりする環境や機会がある ★ ※うた・音楽・手遊び・ダンス/うたう・おどる・ゆれる・かく・つくる など	
61		3							子どもが様々な自然物に直接触れる機会や環境がある ★ ※水・砂・土/草・木・花/虫・生き物など	
62		5							子どもが身近な自然現象(風・雨・雲・太陽・虹・氷・雪・霜・つらら/暑さ寒さ など)を感じられるように関わっている ★	
64		3							生活や安全上、情報共有や連携が必要な時に、保育者同士が声をかけあったり協力しあったりしている ★ (よく聞こえなかった場合、内容と意図を尋ねる) ※役割分担・欠席の子どもの報告など/戸外での危険に関する注意・人数確認の共有・子どもの状況の共有	
7		5							子どもが生活する上で安全な環境を確保するために、保育中に気づいたことはすぐに実行・改善したり、保育者間で共有したりするようにしている。★ ※子どもが使っていない状態で床に散らかっている玩具を、子どもが踏まないよう片づける/ドアが開け放されていたら閉めるなど	
2. :	質問	する	項	3						
22	身体・運動	5						_	一人一人の身体や動きの発達を把握して、その子の発達に必要な動きが十分にできるように、環境と時間を保障している。 ★「子どもの身体発達や運動発達をどのように保障していますか?」 ※ 4:その時期の運動発達をしっかりと踏み固める必要性とその方法について言及	
39	環境	3						_	【室内】子どもの発達過程・興味等をふまえた玩具・素材等がある ★「おもちゃの選び方や入れ替えはどのようにしていますか?」 ※ 4:子どもの発達・興味関心の両方について言及	
63	自然現象	5						-	保育者自身が自然物や自然現象に興味をもったり、気づいたことを子 どもに知らせたりしている。 ★「自然物や自然現象に興味をもったり、調べたりすることはありますか? (子どもの興味があるものを調べてみる/空を見上げる」 ※ 4: (観察時) 子どもと自然物をよくみようとする+保育者自身に関心がある	
66	連	3						_	気になることがある時や困ったことがある時は、気軽に同僚間で情報 共有したり、相談したりすることができている。★	
67	携	5						ı	子どもの様子や思い、発達・育ち、経験の積み重ね、保育環境や援助などについて、保育者同士で話し合っている。★	
69	記録と	5						_	子ども一人一人の育ちを記録し、職員間で共有したり、話し合ったり している。★	
73	計	5						_	保育の計画は、子どもの思いや興味・関心に応じて変更するなど柔軟 に対応している★	
10	排泄	3						_	子ども一人一人の排泄の間隔や子どもの様子等を考慮して、おむつを交換したり、安心してトイレに行けるようにしている ★個々の排泄の状況をどのように観察し共有しているか、トイレトレーニングについて尋ねる。※排尿の間隔とおしっこの色の確認/自立歩行/排尿を知らせようとする な	
17		5						_	子ども一人一人が安心し、落ち着いて授乳や食事を行えるよう、生活 リズムを考慮して食事の時間を設定している。★	
20		5							早く目覚めた子どもも落ち着いて過ごせるように配慮している。★	

		段階	4	3	2	1			4:かなり (7割~) 3:まあまあ (4~6割程度) 2:少し (~3割程度) 1. なかった	memo
					_				毎日の生活リズム(睡眠時間・食事・排泄・体温等)など、日々の子	
									どもの様子を保護者と園で共有しあっている	
3		3						-		
									対応されていますか?」	
									◎連絡帳に記載欄がある→2/連絡帳を確認して保育に反映させている→3 /連	
									絡帳を確認して保育に反映させている(他の保育者・職員との連携)→4	
									子どもの排泄の様子について、園と家庭で情報共有しながら進めてい	
									6	
									★「排泄に関わる発達やトイレトレーニングなどについて、保護者の	
11		5						_	方々とはどんなふうにやりとりをされていますか?」	
									※(評価観点)入園時・トイレトレーニングの過程にあるなど、丁寧な聞き取りが必要 	
									な子に関して言及があるか	
									◎保護者からききとっている→2/ききとり+情報提供している→3/ききと	
									り・情報提供を丁寧にしていたり相談しながら進めたりしている→4	
									子どもの発育(授乳間隔や嚥下や咀嚼)・健康状況・食事(食べてい	
									るもの・食べている様子など)について、家庭と情報共有したことを	
									踏まえて進めている	
1.4	食	•					_		★「食事の進め方について、保護者の方々とはどんなふうにやりとり	
14	事	3	Ш		Ш	Ш	╵	_	をされていますか?」	
									※(評価観点)入園時・離乳食の過程にあるなど、丁寧な聞き取りが必要な子に関して	
									言及があるか	
									◎保護者からききとっている→2/ききとり+情報提供している→3/ききと	
									り・情報提供を丁寧にしていたり相談しながら進めたりしている→4	
									子どもの発育・健康状況や睡眠などの様子について、園と家庭で情報	
									共有しながら進めている★	
10		•					_		★「睡眠や健康状況について、保護者の方々とはどんなふうにやりと	
19		3	Ш	ш	Ш	Ш	╵	_	りをされていますか?」	
									※(評価観点)入園時など、丁寧な聞き取りが必要な子に関して言及があるか	
									◎保護者からききとっている→2/ききとり+情報提供している→3/ききと	
									り・情報提供を丁寧にしていたり相談しながら進めたりしている→4	
									園での子どもの生活や遊びの様子、育ちについて保護者に情報共有し 	
									ている。	
74		3						_	★「園での子どもの生活や遊びの様子や、育ちについてはどのように	
	家								共有していますか?」	
	庭と								◎連絡帳で共有→2/連絡帳と口頭で共有→3/3に加えてドキュメン	
	o o								テーションや保護者会などで共有→4	
	連								子どもの様子で心配なことやトラブル、怪我等があった場合は、子ど	
75	携	5						-	もと保護者の気持ちの両方を大切にしながら支えている。★(例え	
									ば、かみつき・ひっかきに対する子どもや保護者への対応)	
		_	_]	_				保護者の様子や家庭の状況の変化、保護者の悩みなどに応じて、話を	
76		5	⊔		Ш	П		-	きいたり配慮したりしている。★	
	支								診断等はついていないが配慮が必要だと思われる子どもに対して、そ	
77	· 援	3	П			$ _{\Box}$			の子のしたいことやできることに配慮したり、家庭と連携したりして	
	へぶ						ľ		いる。★	
	の要								特に配慮が必要な子ども(医療的ケア児・障害児・外国にルーツのあ	
78	^能 な 慮 _	5							特に配慮が必要な子とも(医療的グア兄・障害兄・外国にルーラのの る子どもなど)に対して、その子のしたいことやできることに配慮し	
10	子 ど	J					ľ			
	_								たり、家庭と連携したりしている。 ★	

スケールに基づいたインタビュー」に加え、以下のことを尋ねる。

<保育者>

- ①「低年齢児の保育」を行う上で大切にしていることはなにか ②「低年齢児の保育」を行う上で悩んでいることはなにか
- <施設長 (または施設長に準ずる職員 ※副園長・教頭など) > ※保育者と別に30分程度のインタビュー時間がいただけるようであれば実施
- ① 低年齢児の保育の質とは / 低年齢児の保育で大事にしていること
- ② 0歳児の保育の質について思うこと、大事にしていること ③ 1・2 歳児の保育の質について思うこと、大事にしていること
- ④ 低年齢児の保育の質について、悩んでいることや困っていること/工夫していること
- ⑤ スケールについて (使用しているか・スケール自体をどう思うか・自己評価と外部評価・どのようなスケールがあるといいか)
- ⑥ 項目についての感想